

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地																							
九州医療スポーツ専門学校		平成20年3月31日	中村 潤	〒802-0077 福岡県北九州市小倉北区馬借1丁目1番2号 (電話) 093-531-5331																							
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地																							
学校法人国際学園		昭和34年10月13日	水嶋 昭彦	〒802-0077 福岡県北九州市小倉北区馬借1丁目1番2号 (電話) 093-531-5331																							
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																						
文化・教養	文化・教養専門課程	アスレティックリハビリテーション・ スポーツトレーナー学科		平成27年文部科学省 告示第13号	-																						
学科の目的	専門職に必要な知識・技能を教授することにより、地域医療の一端を担い、安全なスポーツ活動のサポートを通して国民の健康増進に貢献する有能な人材を養成することを目的とする。																										
認定年月日	平成29年2月28日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時間又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
2年	昼間		88	66	0	22	0	0																			
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																					
60人		46人	0人	6人	21人	27人																					
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日			成績評価	■成績表：有 ■成績評価の基準・方法 出席率、終講試験の結果																						
長期休み	■春期：3月7日～4月10日 ■夏期：8月11日～8月15日 ■冬期：12月23日～1月4日			卒業・進級条件	【進級条件】 学則に定められた単位を修得すること。ただし、1年次の未修得授業科目が3科目以内であれば、2年次に仮進級を認める。 【卒業条件】 学則に定められた単位をすべて修得していること。																						
学修支援等	■クラス担任制：有 ■個別相談・指導等の対応 保護者連絡および個別面談を実施			課外活動	■課外活動の種類 長崎街道歴史発見ウォーク、学園祭、 専門学校体育大会 ■サークル活動：有																						
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) 医療機関、機能訓練専門デイサービス施設その他			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業者に関する平成29年5月1日時点の情報)																						
	■就職指導内容 キャリアサポートセンターによる就職指導				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アスレティックトレーナー</td> <td>③</td> <td>20</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>健康運動実践指導者</td> <td>③</td> <td>20</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>トレーニング指導者</td> <td>③</td> <td>20</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>障がい者スポーツ指導員</td> <td>③</td> <td>13</td> <td>13</td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	アスレティックトレーナー	③	20	6	健康運動実践指導者	③	20	18	トレーニング指導者	③	20	16	障がい者スポーツ指導員	③	13	13
	資格・検定名	種	受験者数		合格者数																						
	アスレティックトレーナー	③	20		6																						
	健康運動実践指導者	③	20		18																						
	トレーニング指導者	③	20		16																						
	障がい者スポーツ指導員	③	13		13																						
■卒業生数：20人																											
■就職希望者数：7人																											
■就職者数：7人																											
■就職率：100.0%																											
■卒業者に占める就職者の割合：35.0%																											
■その他 卒業者に占める就職者以外の者：13人(65.0%) (内訳) 進学：2人(医療系専門学校への進学) その他：11人(本学科と併学していた医療系専門学校の修学を継続) (平成28年度卒業者に関する平成29年5月1日時点の情報)			※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 上表の「資格・検定」は、それぞれ以下の認定のもの。 アスレティックトレーナー(日本体育協会) 健康運動実践指導者(健康・体づくり事業財団) トレーニング指導者(日本トレーニング指導者協会) 障がい者スポーツ指導員(日本障がい者スポーツ協会)																								
中途退学の現状	■中途退学者 4名 平成28年4月1日時点において、在学者47名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者43名(平成29年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更			■中退率 8.5%																							
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：有 全国高校総体、国民体育大会出場またはそれに準ずる大会出場経験や、プロスポーツまたはアマチュアスポーツにおいて活躍実績のある者。入学金及び授業料を、実績に応じて20万円～全額を免除。 ■専門実践教育訓練給付：非給付対象 ※前年度給付実績者数 前年度給付実績なし。																										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価：無																										
当該学科のホームページURL	https://www.kmsv.jp/trainer/																										

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

スポーツトレーナーの必要性・重要性の理解が進むに連れ、トレーナーに期待されるニーズもより深化している。そこでトレーナーに対する最新のニーズについて教育課程編成委員会を通して関連する企業や団体から提案してもらい、それらを学科のカリキュラム等に反映させることで職業教育の水準向上を図ることを基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

本校は、実践的かつ専門的な職業教育を実施するために、病院、企業、大学等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行い、教育課程の編成(授業科目の開設や授業方法の改善・工夫を含む。)に活かすことを目的に学科毎に教育課程編成委員会を設置する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年4月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
中村 潤	九州医療スポーツ専門学校 校長		
西田 真紀	九州医療スポーツ専門学校 副校長		
中島 喜代彦	九州医療スポーツ専門学校 副校長		
味村 吉浩	九州医療スポーツ専門学校 教務部長		
寺本 敦司	九州医療スポーツ専門学校 アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科 学科長		
堀内 担志	九州共立大学スポーツ学部 教授	H29年4月1日～H31年3月31日	①
阿部 正則	株式会社タカミヤ さわらびF&Cクラブ マネージャー	H29年4月1日～H31年3月31日	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

6月と11月の年2回。但し、開催の必要があると委員が判断した場合は、委員長に開催を願い出ることができる。

(開催日時)

第1回 平成29年 6月14日 16:30～18:10

第2回 平成29年11月16日 17:00～19:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

教育課程編成委員会で提起された主な意見

- ① 人間教育の重点化
- ② 指導力向上を目的とした教育
- ③ トレーナー活動と医療行為における法的な認識の教育
- ④ ハラスメント教育の組入れ
- ⑤ データ分析能力の習得

提起された意見に対する対応

- ① 学科指導要綱に基づく人間教育。学科心得の策定とその実行
- ② 実習前の事前指導およびティーチング・アシスタントの採用
- ③ 授業内での教授に取入れ
- ④ 授業内での教授に取入れ
- ⑤ 現在の環境で取り入れられる範囲で教授

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実習・演習等にあたる専任教員には、前線で活躍している臨床経験豊かなスポーツトレーナーを選定する。専門科目の授業の一部を担当する外部講師の選定に当たっては、スポーツトレーナーとしての実践経験豊富な者を選定する。総合実習をはじめ、実技・演習などは、できる限り実践の場ないしは実践を想定した環境にて行う。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

企業等と連携して行う科目として、コンディショニング2・3が挙げられる。実習では、スポーツ現場でアスレティックトレーナーとして指導経験豊富な教員に出講依頼している。担当教員とは、業界で必要とされる人材、今後の動向についての意見交換を行っている。将来、学生らがスポーツ現場で必要とされる人材の育成を第一の目標として、企業等との連携を図っている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
コンディショニング2	外部の大学より専門家を招いてストレッチング、テーピング、コンディショントレーニングについて実習を行う。	久留米大学
コンディショニング3	コンディショニングの専門家により、トレーニング指導者として安全かつ効率的に陸上トレーニングと水上トレーニングができるようになる実践力を獲得することを目的とする。	きよた鍼灸院

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

本校の教育目標達成のために必要な教員の研修・研究支援を積極的に推進する。そのための教職員研修規定を設けている。支援の内容を、学生教育に資することと各教員の専攻する専門領域の学究に資することとに大別する。学生教育に資することとして、教育力向上が期待できるさまざまな研修会への参加や学会への入会が想定される。同時に医療施設や介護施設の現場研修等を通しての最新の現場現状の把握などが想定される。教員の専門領域の学究に資することとしても、前述と同様なことが想定される。本校のFD (Faculty development) の一環として、学生教育に資することを目的に外部講師による講義やワークショップを行う。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

平成29年1月16・17・18・19・20日 救急法救急員講習会（日本赤十字社福岡県支部）
平成29年3月24・25・26日 第25回トレーナーセミナー（日本陸上競技連盟）

② 指導力の修得・向上のための研修等

平成28年8月24日 平成28年度日本体育協会公認アスレティックトレーナー専任教員ミーティング
（公益財団法人日本体育協会）
平成29年3月21日 健康運動実践指導者養成校養成講座主任教員研修会（健康・体力づくり事業財団）

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

平成30年1月15日 救急員講習会（日本赤十字社福岡県支部）

② 指導力の修得・向上のための研修等

平成29年 8月28日 日本体育協会公認アスレティックトレーナー専任教員ミーティング
（公益財団法人日本体育協会）
平成29年11月11・12日 AT専任教員講習会（社団法人日本体育協会）
平成29年12月 公認障がい者スポーツ指導員資格取得認定校研修会（日本障がい者スポーツ協会）

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価を推進するために、学則第30条の(7)及び細則第76条に規定した「学校関係者評価委員会」を設置した。この委員会は、関係団体役職員・高等学校の校長・同窓会役員の学外関係者のみで組織し、校内組織である「自己点検・自己評価委員会」から出された点検および評価結果をもとにさまざまな方面から検討・協議することを責務とする。
本校は学校関係者評価委員会からの提言等をもとにより良い学校を訴求していく。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	理念・目的・育成人材像、特色、将来構想
(2)学校運営	運営方針、事業計画、運営組織、処遇、意思決定、情報システム
(3)教育活動	業界ニーズ、到達レベル、カリキュラム、評価体制、評価基準、指導体制
(4)学修成果	就職率、資格取得率、退学率、社会的活動
(5)学生支援	就職・進学指導体制、相談体制、経済的支援体制、生活環境、保護者連携
(6)教育環境	施設・設備、学外実習等、防災体制
(7)学生の受入れ募集	学生募集活動、入学選考基準、学納金
(8)財務	財務基盤、予算・収支計画、会計監査、財務情報公開
(9)法令等の遵守	設置基準、個人情報、自己評価と公開
(10)社会貢献・地域貢献	学校教育資源の活用、ボランティア活動
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会で提起された主な意見

- ① 各学科の教育目標を、教員及び学生が共に理解を深めて進化すべきである。
- ② 学生の将来を見据えたきめ細かい教育指導を行い、医療業界の構成員としての理解を深めさせる必要がある。
- ③ 学生が気軽に相談できるためのスペースの確保や、目の前の教員が親身になることも必要である。
- ④ 学生獲得の競争が激化する中、学校の個性化が必要である。

提起された意見に対する対応

- ① 各学科の教育目標を教員のみならず学生に対しても広く掲げ、教員、学生共に理解を深めるように努める。
- ② シラバスの中に医療従事者としての自覚を促す内容を盛り込むことで対応する。
- ③ 学校カウンセラーに任せることなく、声かけなどによって教員と学生の距離を縮め、気軽に相談できる環境の整備に努める。
- ④ SNS等を通じて11学科を有する本校の特性を強調すると共に、より多角的な視野をもつ医療従事者の養成に努める。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
堀内 担志	九州共立大学(特別客員教授)	H29年4月1日～H31年3月31日	関係団体役職
久保 英二	福岡県立北九州高等学校(校長)	H29年4月1日～H31年3月31日	校長
大森 弘太郎	九州医療スポーツ専門学校同窓会(会長)	H29年4月1日～H31年3月31日	同窓会会長

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ

URL : <https://www.kmsv.jp/publication/>

公表時期 : 9月末

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校では平成22年度より学生による授業評価を実施し、その結果を担当教員にフィードバックすることをもって自己点検・自己評価と位置付けてきたが、今後はそれを前述の4.の(2)専修学校における学校評価ガイドラインに準拠した内容にまで拡げ、そのすべての結果を本校の学校関係者評価委員会に提示する。学校関係者評価委員会で検討・協議してもらった上での提言内容に対する本校ならびに学科の見解ならびに対処等については、本校のホームページ等で企業等の学校関係者に対して情報の提供を行う。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	教育理念、学校の特徴、施設設備、教育目標及び授業実施計画、校長名、所在地、連絡先等、その他の諸活動に関する計画
(2)各学科等の教育	学科紹介、資格取得内容、シラバス、募集要項(選考方法と募集定員)
(3)教職員	教員情報
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育の取組、実技・実技等の取組、就職支援等の取組
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事、課外活動
(6)学生の生活支援	指定寮及びアパート等紹介、学生相談、就学支援
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金、奨学金制度
(8)学校の財務	貸借対照表
(9)学校評価	自己点検自己評価・学校関係者評価委員会評価・外部評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	国家試験合格率

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL:<http://www.kmsv.jp/>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科) 平成29年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			スポーツ社会学	スポーツの概念と歴史、文化としてのスポーツ、社会の中のスポーツ、スポーツと人権を理解する。	1前	16	1	○			○	○				
○			スポーツ経営学	我が国のスポーツ振興施策、スポーツ事故、スポーツ事業のプロモーションについて理解する。	1前	16	1	○			○	○				
○			コーチング論1	スポーツ指導者の視点、アスリートの発掘・育成、指導計画、安全管理、ミーティングの方法について理解する。	1前	16	1	○			○	○				
○			コーチング論2	世界の頂点を目指すアスリートの育成・強化と指導者の役割、トップアスリートの育成と評価の方法、チームマネジメントについて理解する。	1前	16	1	○			○	○				
○			トレーニング科学1	外部の大学より専門家を招いて、体力、トレーニングの進め方、トレーニングの種類、トレーニング計画とその実際、体力テストとその活用、スキルの獲得とその獲得過程について理解する。	1前	30	2	○			○			○		
○			保健体育理論1	健康スポーツセラピスト学（関係法規、保健指導、スポーツ栄養学、スポーツ医学、解剖生理学）について理解する。	1前	32	2	○			○		○			
○			保健体育理論2	健康スポーツセラピスト学（スポーツ医学と健康管理、スポーツ外傷と熱中症、メンタルトレーニング、ストレッチ理論）について理解する。	1後	32	2	○			○		○			

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			発育発達論	大学の専門家を招いて、発育発達期の身体的特徴、心理的特徴、外傷と病気、運動プログラム、女性のスポーツを理解する。	1後	16	1	○			○			○	
○			スポーツ観戦実習	校外のスポーツ施設に出向いて、様々なスポーツを観戦し、競技特性、競技運営、トレーナーの業務、救急体制を見学実習する。	1後	30	1			○		○			
○			からだの仕組み	スポーツ指導者やスポーツトレーナーに必要な解剖学、機能解剖学、生理学、運動学、動作分析について理解する。	2後	30	2	○			○			○	
○			体力測定法	体力の概念、体力測定（無酸素能力・有酸素能力・最大酸素摂取量・無酸素性作業域値・体組成・新体力テスト）について理解する。	2後	16	1	○			○		○		
○			テーピング・手技療法実習	テーピング（総論・上肢・体幹・下肢）と手技療法（総論・上肢・体幹・下肢）について理解する。	1前	30	1			○	○		○		
○			トレーニング指導者理論1	トレーニング指導者の役割とトレーニングプログラム（筋力・パワ・持久力・スピード・柔軟性・傷害の受傷から復帰まで）について理解する。	1後	30	2	○			○		○		
○			トレーナー基礎演習1	トレーナーとしての役割（幼児・小学生・中学生）の実際について理解する。	1前	30	2	○			○		○		

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			トレーナー基礎演習2	トレーナーとしての役割（高校生・大学生・実業団・各種代表）の実際について理解する。	2前	30	2	○			○		○		
○			スポーツ医学1	スポーツと健康、スポーツ活動中に多いけがや病気、スポーツ指導者としての対応について理解する。	1前	18	1	○			○			○	
○			スポーツ医学2	外傷と障害対策、アスレティックリハビリテーション、コンディショニング、アンチドーピング、運動器の仕組みと働き、バイオメカニクスについて理解する。	1後	22	1	○			○				○
○			スポーツ栄養学1	五大栄養素の役割、活動レベルによる栄養所要量、栄養とトレーニング、水分補給、アスリートの栄養摂取と食生活について理解する。	1前	16	1	○			○				○
○			スポーツ心理学1	スポーツと心、スポーツにおける動機づけ、コートングの心理、メンタルマネジメント、指導者のメンタルマネジメント、スポーツによる精神障害と対策について理解する。	1後	24	1	○			○				○
○			アスレティックトレーナーの役割	アスレティックトレーナーとは、アスレティックトレーナーの役割、医科学スタッフとの連携・協力、組織運営と管理、アスレティックトレーナーと倫理について理解する。	1前	30	2	○			○			○	
○			トレーニング科学2	トレーニングの基本的概念、種類と科学的基礎、効果と評価、性、発育・発達、老化、栄養、疲労と疲労回復、環境、オーバートレーニングについて理解する。	1後	30	2	○			○				○

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科) 平成29年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			トレーニング指導者実習	筋力、パワー、持久力、スピード、柔軟性の理論と向上プログラムログ作成実習およびプログラムに沿ったトレーニングについて実習する。	1前	30	1			○	○			○		
○			バイオメカニクス	バイオメカニクスの基本理論、バイオメカニクスの実際（歩動作、走動作、跳動作、投動作、打動作、蹴動作、滑動作、泳動作、漕動作）について理解する。	1後	30	2	○			○				○	
○			検査と測定の手法1	姿勢・身体アライメントの観察・測定、関節弛緩性検査、関節可動域検査、筋萎縮の検査、徒手筋力検査について理解する。	2前	20	1	○			○				○	
○			検査と測定の手法2	機器を用いた筋力・筋持久力検査、全身持久力検査、身体組成検査について理解する。	2前	20	1	○			○				○	
○			運動処方論	運動効果と運動不足、トレーニングの原則と効果、エクササイズガイド、有酸素運動の特徴と効果、肥満と運動、糖尿病と運動、高齢者と運動について理解する。	2後	30	2	○			○			○		
○			トレーニング指導者理論2	体力学総論、機能解剖（上肢・胸郭・脊柱・下肢）、バイオメカニクス、呼吸循環系、エネルギー代謝、骨格筋系、神経系、内分泌系、栄養、心理、競技力向上、リハビリテーション、救急処置、運動指導について理解する。	1後	30	2	○			○			○		
○			運動生理学	筋収縮とエネルギー、筋線維の種類、神経系による調整、呼吸、循環、内分泌、代謝、身体組成と肥満、水分・栄養摂取、環境、発育・発達、老化について理解する。	1前	30	2	○			○				○	

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			運動器の解剖と機能1	運動器の解剖と機能概論、体幹の基礎解剖学と運動学について理解する。	1前	20	1	○			○			○	
○			運動器の解剖と機能2	上肢の基礎解剖学と運動学について理解する。	1前	20	1	○			○			○	
○			運動器の解剖と機能3	下肢の基礎解剖学と運動学について理解する。	1後	20	1	○			○			○	
○			スポーツ栄養学2	外部の企業より専門家を招いてアスリートの身体組成、からだ作りとウェイトコントロール、競技特性と食事、特殊環境下における栄養ケア、サプリメント利用時の留意点、アスリートの栄養教育について理解する。	2後	30	2	○			○			○	
○			スポーツ心理学2	スポーツと認知、動機づけ、目標設定、運動の学習、スポーツと発達、競技者の性格と態度、パーソナリティ、メンタルトレーニング、スポーツカウンセリングについて理解する。	2前	30	2	○			○			○	
○			救急処置	救急処置の基本的知識、緊急時の対応計画と外傷の評価、外傷時の救急処置、緊急時の救命処置、内科的疾患の救急処置、現場における救急体制について理解する。	1前	30	2	○			○		○		
○			救急処置実習	外部の企業から専門家を招いて心肺蘇生法、AEDの取り扱い、止血法、骨折などの固定法、搬送法について実習を行う。	1後	30	1			○	○			○	

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			スポーツ動作の観察と分析	外部の企業から専門家を招いてアスレティックトレーナーに必要な評価、スポーツ動作の観察と分析（歩動作、走動作、跳動作、投動作、打動作、蹴動作、滑動作、泳動作、漕動作）について理解する。	2前	20	1	○			○			○	
○			コンディショニング1	外部の企業から専門家を招いてコンディショニングの把握と管理、コンディショニング方法（競技力向上、傷害予防）、競技種目特性とコンディショニング、境涯予防に必要な環境整備について理解する。	2前	30	2	○			○			○	
○			コンディショニング2	外部の大学より専門家を招いてストレッチング、テーピング、コンディショントレーニングについて実習を行う。	2前	30	1			○	○			○	○
○			コンディショニング3	外部の大学より専門家を招いてスプリントと持久性トレーニング、サーキットトレーニング、ウォーミングアップ・クーリングダウン、アクアコンディショニング、フィールドテスト、フィットネスチェック、身体組成、柔軟性テストについて実習を行う。	2前	30	1			○	○			○	○
○			ジュニアスポーツ理論	子どもの発育・発達期の身体的心理的特徴、子供たちに対するスポーツの必要性、コーディネーション能力を高めるプログラム作成・指導について理解する。	2後	30	2	○			○			○	
○			ジュニアスポーツ実技	子どもの発育・発達期の身体的心理的特徴を理解し、コーディネーション能力を高めるプログラム作成・指導の実習を行う。	2後	30	1			○	○			○	
○			SAQトレーニング実習	プリパレーション、アジリティー、プライオメトリクス、クイックネス、スピード、体幹トレーニングの実習を行う。	1前	30	1			○	○			○	

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			トレーニング実技	各種マシントレーニングの使用法・注意点を理解し、正しいフォームを身につけ、対象者に対して効率的かつ安全にトレーニング指導ができるようになる。	1後	30	1			○	○		○		
○			機能評価法実習	スポーツ現場での傷害発生時の応急処置に必要なスペシャルテストなどの評価能力と応急処置、テーピングを身につける。	2前	30	1			○	○		○		
○			アスレティックリハビリテーション1	アスレティックリハビリテーションの考え方、運動療法（アスレティックリハビリテーションにおけるエクササイズの基本知識）、物理療法と補装具に関する基礎知識について理解する。	1前	30	2	○			○			○	
○			アスレティックリハビリテーション2	上肢と体幹における外傷ごとのリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラム作成と実践について理解する。	1前	30	2	○			○			○	
○			アスレティックリハビリテーション3	下肢における外傷ごとのリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラム作成と実践、競技種目特性に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングについて理解する。	1前	30	2	○			○			○	
○			スポーツ外傷と障害1	アスレティックトレーナーに必要なスポーツ外傷・傷害の基本知識、病態・評価方法、重篤な外傷、年齢・性差によるスポーツ外傷の特徴を理解する。	1前	30	2	○			○			○	
○			スポーツ外傷と障害2	アスレティックトレーナーに必要な上肢・下肢・体幹の主なスポーツ外傷の病態・評価方法、重篤な外傷、年齢・性差によるスポーツ外傷の特徴を理解する。	1前	30	2	○			○			○	

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			スポーツ外傷と障害3	アスレティックトレーナーに必要なスポーツ外傷・障害の基礎知識を理解する。	2後	30	2	○			○		○		
○			スポーツ医学3	外部の企業から専門家を招いてアスリートにみられる内臓器官の疾患、感染症の対応策、病的現象、年齢・性別による特徴、高齢者のスポーツ医学、内科的メディカルチェックについて理解する。	2後	30	2	○			○			○	
○			フィットネスエクササイズ	外部の企業から専門家を招いて体組成（体脂肪率）、心肺機能、筋力・筋持久力、柔軟性を向上させる運動と運動指導を実習する。	1後	30	1			○	○			○	
○			見学実習	アスレティックトレーナーの役割（スポーツ外傷・障害の予防、スポーツ現場における救急処置、アスレティックリハビリテーション、コンディショニング、測定と評価、健康管理と組織運営、教育的指導）を様々なスポーツ現場に出向き実習を行う。	1前	30	1			○	○	○			
○			スポーツ現場実習	アスレティックトレーナーの役割（スポーツ外傷・障害の予防、スポーツ現場における救急処置、アスレティックリハビリテーション、コンディショニング、測定と評価、健康管理と組織運営、教育的指導）を様々なスポーツ現場に出向き実習を行う。	1前	30	1			○	○	○			
○			検査・測定と評価実習、アスレティックリハビリテーションプログラム作成実習	アスレティックトレーナーの役割の中の検査測定と評価ならびにアスレティックリハビリテーションプログラム作成の実習を行う。	1後	30	1			○	○		○		
○			アスレティックリハビリテーション実習1	アスレティックトレーナーの役割の中のアスレティックリハビリテーションの実習を行う。	2前	30	1			○	○		○		

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			アスレティックリハビリテーション実習2	アスレティックトレーナーの役割の中のアスレティックリハビリテーションを競技特性を考慮したプログラム作成をもとに実習を行う。	2前	30	1			○	○			○	
○			総合実習1	アスレティックトレーナーの役割（スポーツ外傷・障害の予防、スポーツ現場における救急処置、アスレティックリハビリテーション、コンディショニング、測定と評価、健康管理と組織運営、教育的指導）を様々なスポーツ現場に出向き基本的な実習を行う。	2前	30	1			○		○	○		
○			総合実習2	アスレティックトレーナーの役割（スポーツ外傷・障害の予防、スポーツ現場における救急処置、アスレティックリハビリテーション、コンディショニング、測定と評価、健康管理と組織運営、教育的指導）を様々なスポーツ現場に出向き様々なスポーツシーンに対応しながら応用的な実習を行う。	2前	30	1			○		○	○		
○			総合実習3	アスレティックトレーナーの役割（スポーツ外傷・障害の予防、スポーツ現場における救急処置、アスレティックリハビリテーション、コンディショニング、測定と評価、健康管理と組織運営、教育的指導）を様々なスポーツシーンを想定し実習を行う。	2後	30	1			○	○		○		
○			総合実習4	アスレティックトレーナーの役割の中の検査測定と評価・救急処置とテーピングの実習を行う。	2後	30	1			○	○		○		
○			総合実習5	アスレティックトレーナーの役割の中のアスレティックリハビリテーション前期・後期の実習を行う。	2後	30	1			○	○		○		
○			生涯スポーツトレーナー実習	その生涯を通じて、健康の保持・増進やレクリエーションを目的にだれもが、いつでも、どこでも気軽に参加できるスポーツ指導の実習を行う。	2前	30	1			○	○			○	

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
合計								1,710単位時間(88単位)							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
(卒業要件) 全ての授業科目における単位(全88単位)を修得。 (履修方法) 本校に登校した上で、講義、実技、及び実習を履修する。	1 学年の学期区分	2 期
	1 学期の授業期間	24 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。